

令和元年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	学力調査の結果から、「書く能力」における「自分の考えが伝わるように図表を用いることができる」という、表現力と共通に問われる部分の正解率の低さが目立った。同時に、無解答の人数の多さも顕著であり、「どうすればよいのか」と戸惑った生徒が多かったことがうかがえる。普段の授業でも、作文や感想を書くことに大きな抵抗を感じている生徒が多いため、「自分の考えを表現する」ことが課題となる。	生徒達の様子を見ていると、「書くこと」より、「話すこと・聞くこと」のほうが、抵抗感が少なく取り組んでいると感じるため、「自分の考えを話したり、他人の意見を取り入れたりする」活動に取り組ませながら、その手段を「話すこと」から「聞くこと」にシフトしていく。文章の展開や構成などを踏まえて、構成メモを元に発表を行い、その内容を文字に書き起こすなどして、徐々に「書くこと」になれさせていく。	
数学	学力調査の結果から、「小数・分数の計算」、「整数の性質」、「比と比例・反比例」の問題において、正答率が低く、定着が不十分であることが課題である。逆に、「図形」の領域は正答率が高く、全体的に得意な領域であることがわかった。	「小数×小数の計算」や「最小公倍数と最大公約数」の理解は3割以上の生徒が不十分であり、「比の考えの活用」や「反比例の関係の活用」についての理解も4割以上の生徒の理解が不十分であることを踏まえ、復習する機会を設ける。	
社会	授業に意欲的な姿勢で取り組んでいる生徒が多く、積極的な発言も多く見られる。その一方で授業を漠然と受け、社会科は暗記科目という意識が如実に表れた受け身の姿勢で授業を受ける場面が散見される。そのことから、授業に対して課題意識を持って取り組み、主体的に社会的現象を捉えられるようになることが、課題である。	授業の冒頭で本時の目標を明確に提示し、この授業の中で何を考え、どのようなことを理解してほしいかを生徒に伝える。そして授業の最後には、必ず自己評価をさせ、目標に対してどの程度理解ができていたかを自分自身で確認させる。また、授業時に分かったことや考えたことを書かせることで、知識の定着を図る。	
理科	実験・観察を取り入れることにより、興味・関心を持ち意欲的に取り組む生徒が多い。その場での知識は理解出来るものの、定着が不安定で、家庭での学習が出来ていないことが課題である。顕微鏡観察などでのスケッチを丁寧に行うことが出来ない生徒が多く、紙に書くなどの技能的な経験が不足しており、パソコンやゲーム、スマホなどの弊害であろう。アナログ的な作業(スケッチ、計算など)も今後は必要である。	身の回りの物質とその性質で学習する「密度」などの計算問題を時間をかけて行い、ドリル形式の学習も活用する。現在盛んにおこなわれているグループ活動同様、大切に、個人の技能を上げる必要もある。また、スケッチなどアナログ的なことも行い、バランスの取れた学習をしていく。理科という教科でしか行わない、技能(顕微鏡、ガスバーナー、各実験装置)を丁寧に安全に行い、経験値を上げていく。	
音楽	授業中の発言など少なく、消極的である。合唱にもそれが表れてしまうので、自分を表現して出していけるようにすることが課題である。音程を正しく取ることが苦手な生徒も少なくない。鑑賞分野において感じたことを言葉で表現するということが苦手な生徒も多い。また、楽典は基本的な理解に個人差があり定着させていく必要がある。	合唱では、発声の確認をして、しっかりと歌う力を身に付けさせる。表現しやすい環境づくりにも努める。鑑賞において、自分の感じたことを言葉で表現するという活動を定期的に取り入れていく中で、具体的な説明を行い、表現できるようにしていく。楽典においては、合唱、器楽曲を行う度に触れて、繰り返し学習することで定着させていく。	
美術	・元気で積極性もあり、どんどん制作する生徒が多い。 ・コツコツ作業を継続することを苦手とする生徒に対する支援は必要。 ・生徒自身の表現方法のバリエーションを増やしたい。 ・授業内でいかに鑑賞を取り入れるか。	・机間個別支援において、個々に応じた課題を的確に提示する。参考作品を多く提示。 ・黒板及び大型画面に作品の参考又は手順、目標とすべき表現などを常に提示し、いつの時点で確認できるようにしておく。 ・PC室、図書室などを活用して鑑賞を多く取り入れる。又、教科書等を用いて授業内導入鑑賞も取り入れ、鑑賞の授業の充実を図る。	
保健体育	授業規律が確立され、意欲的に取り組もうとする生徒が多い。自分で課題をみつけて自主的に活動することは、まだ不十分である。2学期以降は保健分野で心身の発達、心の健康について学ぶ。	体育委員をリーダーとして育成し、自主的に活動できるようにする。授業の目的、内容を明確にして、準備、片付けを含めて生徒が自分達でできるようにする。又、基礎体力の向上を目指し、4分間走を準備運動に取り組みでいく。安全に関することは、毎時間必ず確認し、徹底させる。	
技術・家庭	【技術】全体的に落ち着きまじめに取り組んでいる。総合ノートの活用により予習的に進んでいる部分がある中、予習、復習に取り組む姿勢に差がある生徒がいる。遅れ気味の生徒へのこ入れが必要である。 【家庭】意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、実習になると個人差が大きく進度に差が生まれるため個別指導が必要である。実生活を良くしようという意欲的な姿勢を育てていく必要がある。	【技術】領域別実習を通し、グループ化による進度に統一性を持ち取り組ませていく。 【家庭】手順が分かる段階見本を充実させ、一斉指導の後に各自で確認ができるようにする。また、班での話し合い活動を多く取り入れ、様々な生活経験にふれることで自分の生活について考えさせる。	
外国語(英語)	全体的に落ち着いた授業態度で、音読練習やペアワークなどの課題を自ら取り組むようになってきた。課題としては家庭学習の継続があげられる。授業の内容が家庭学習へとつながらずに知識が定着していない場面が見受けられる。学力の差が開きつつあるこの時期に定期的な課題に取り組む学力の向上を図りたい。	・毎時間の授業でペア、グループワークを活用し、積極的に英語を使い意思伝達を行う場面を作る。 ・計画的にスピーチの機会を設定し自分の考えを英語にまとめ相手に伝える練習を行う。 ・定期的に新出単語・語句に関する小テストやスプレッドシートを行い定着を図る。 ・家庭学習を促すために、ノートを活用し音読練習と英文を書く練習を習慣化させる。	
総合	「食」というテーマに沿い、清瀬市の農業などを学び自ら作物を植え、育て、収穫する作業をした。今年のような梅雨時の不安定な天候や動植物による危険な行為(カラスが襲う、蚊に刺される)もあり、必ずしも安心・安全ではないが、そのことも含めて「食」が成立しているのであり、良い経験であるが、昨今の教育情勢を見て、保護者の理解が今後も可能なのか、また作物を育てるということを教員自身がしっかり教えれるのか、不安でもある。	農家さんの活用や「農業大学」「農業高校」など、専門家の指示を仰ぎながら活動していくことができると良いであろう。「作物」についての知識・理解を教員が持っているような、研修も必要であるが、「働き方改革」に逆行し新たな負担にもなり、厳しいのが現実である。一年生の「食」から二年生の「農業体験」につなげているが、今後はテーマを変えていくことも必要であろう。	
道徳	・教材を読み、自分の意見を伝える、他者の意見に耳を傾ける、等の話し合い活動からさらに自分の考えを深める授業が定着してきた。教材の準備、特に中心発問の精選が今後の課題。 ・映像等の視覚的な教材や心情円を利用することで、個人の意見を班やクラス全体で色々な意見を共有することができた。教材によって様々な授業パターンやワークシートを準備することが今後の課題。	・導入～展開～終末の流れの中で生徒が自分の意見を深めることを意識して発問を精選する。特に生徒の実態に即して自分の関わることとして考える状況を設定する。 ・グループの形態、発表方法の形式(板書、ホワイトボード、付箋の利用)、ワークシート等を変化させてあらゆる角度から生徒の思考を深める。	